

朝日特別支援教育通信 NO,3

発行日 H27, 11, 9

文責 朝日小学校 鎌田 隆仙

インクルーシブ教育が進められている中、みなさんに特別支援教育についての正しい知識や考え方についてお知らせするための通信です。不定期ではございますが、一読して頂けるとありがたいです。

ところで特別支援教育って何？

今更ですが特別支援教育とは、どういう教育なのでしょう？

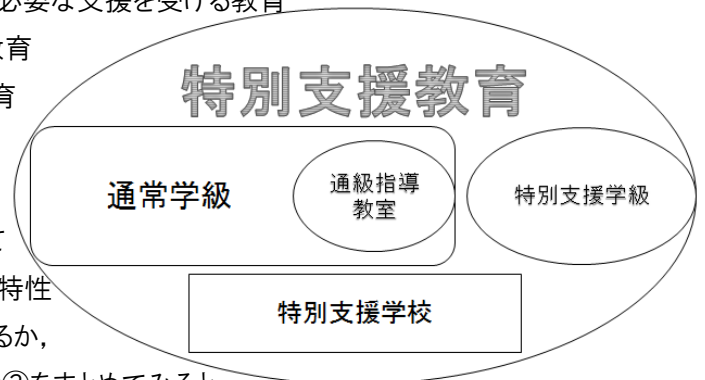
特別支援教育とは、従来の特殊教育の対象の障害(盲・聾、知的障害、肢体不自由、病弱)だけでなく、LD、ADHD、高機能自閉症を含めて障害のある児童生徒の自立や社会参加に向けて、その一人一人の教育的ニーズを把握して、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するために、適切な教育や指導を通じて必要な支援を行うものである。(文部科学省「今後の特別支援教育の在り方について(最終報告)のポイント」より)

分かりやすくまとめると

- ①「障害のある児童生徒」が、「自立や社会参加」に向けて必要な支援を受ける教育
- ②「一人一人の教育的ニーズ」に対応した支援を受ける教育
- ③「生活や学習上の困難を改善又は克服するため」の教育

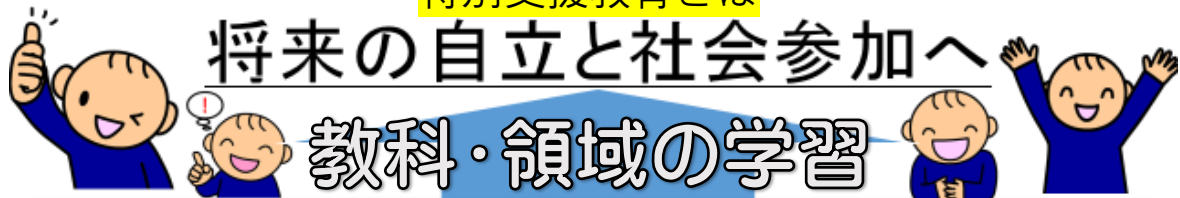
「障害のある児童生徒」という文言があり、診断名があるか、ないかにとらわれがちです。しかしながら、NO1NO2で書かせて頂いた通り、障害とは診断によるものではなく、その児童生徒の特性を含めた状態が現在の環境と混ざり合って、どの程度困っているか、ある場面で不適応を起こしているか、ということになります。①②③をまとめてみると・・・

「今、様々な場で困りを抱えている、一人一人みんな違った特性をもっている全ての児童生徒に、自立と社会参加のために、それぞれに合った教育を行い、現在感じている困難を改善・克服していくもの」が特別支援教育と言えるのではないかと私は思っています。



特別支援教育とは

将来の自立と社会参加へ



それぞれの困りにあった教育活動

ソーシャルスキルの習得 人間関係力の向上
コミュニケーション力 個別での学習 情緒の安定



一人一人違った特性をもった児童生徒

では、インクルーシブ教育とは？

今回のまとめ

参考出典 2015/7/25 北海道大学教授 安達潤 北海道立特別支援教育センター基調講演より
2015/5/21 国立別支援総合研究所研究員 徳永亜希雄 ICF理論講義より

国際的には、すべての子供にはそれぞれのニーズがあり、子供の障害の程度や内容によって区分すべきではなく、もともと子供という 1 つのグループしかないという発想から、インクルージョン(inclusion=包含)という言葉が使われるようになっていく。

(新井郁男 上越教育大学名誉教授 / 2007 年)

インクルーシブ教育システム(inclusive education system)とは、人間の多様性の尊重等を強化し、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能にするという目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みです。そこでは、障害のある者が一般的な教育制度(general education system)から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、個人に必要な「合理的配慮」(reasonable accomodation)が提供されること等が必要とされています。

また、報告では、インクルーシブ教育システムにおいては、同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個